

# 2021 「山ちゃん通信」 No,40

## 大分教育事務所訪問 21(zoom)

### 津久見市立保戸島小、中学校から学ぶ

私は8年前？県教育庁義務教育課に勤務したとき一度おじゃましたことがある保戸島小・中学校なので、ワクワクしておりましたが、ZOOMによる面談形式でした。

今回は、少ないスタッフで知恵を出し合いながら子ども達のためにご尽力されている先生方や、地域の方からの大きな愛に包まれて育てている3名の子ども達(児童数2名、生徒数1名)の様子を見ることは叶いませんでしたが、コロナが落ち着きましたら、ぜひぜひ訪問したいと思っています！！



### 学校経営から学ぶ

学校の教育目標「ふるさとを愛し、学ぶ意欲と心身ともにたくましい『ほとじまっ子』」を育成するために、めざす子ども像を「わかる・できるを実感する子ども(知識・技能)」「自分の考えをもち、表現できる子ども(思考力・判断力・表現力)」「ふるさとを愛し、豊かな心をもつ子ども(学びに向かう力・人間性)」と、具体的な子どもの姿と、そのために必要な資質・能力(3本柱)を意識して定めています。

さらに、学校をあげて育成を目指す資質・能力を「コミュニケーション能力」等と、付けたい力を明確にすることで、教職員の意識を揃えるだけでなく、保護者、地域と協働した実践を行おうとしています。

このような極小規模校にあっても、上記のように、「目指す子ども像」の具体的な姿と育成を目指す資質・能力を明確にすることは、それぞれ一人ひとりの個性を伸ばすことにとどまらず、子ども達が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することができます。さらに、子ども達や教職員だけでなく保護者や地域の方も、子ども達につけるべき資質・能力がイメージしやすいので、協働的な取り組みがより推進されると思います。

校長先生は、「海岸清掃」の復活を思案しているようです。その際に、「なぜ海岸清掃をしなければいけないのか」「どうすれば地域の協力を得られるか」等を、子ども達にどのような力をつけることを明確にして、今はいろいろと種をまいているようです。きっと、目的(資質・能力)手段(海岸清掃)とを明確にした素晴らしい実践になることでしょう。

今後は、熟議などをおして地域の課題や保護者の願いを聞き、そのような地域の課題を子ども達で解決するような実践を総合的な学習の時間等で取り組むことで、地域のために役立っていることが実感でき子ども達の自尊心が向上すると思います。また、そのような協働的な取組を繰り返し行うことで、それぞれ3人の強みを活かす場面も増え、育成を目指す資質・能力がより共有されることにもつながると思います。



### 授業から学ぶ

指導案と板書を提出していただき、誠にありがとうございました。丁寧な板書を見ると、授業が効果的に行われたことがうかがえます。今後は「ふりかえり」で子どもがどのような事を書くのか、どの姿になったら良いのか等、教師が願う具体的な姿を、「子どもを主語」にした言葉で明記することで、「めあて」との連動や評価規準が明確になり、さらに授業力が向上することにつながると思いました。